

異色作家シリーズV 没後50年記念 佐藤哲三展 Sato Tetsuzo retrospective

会 期 : 2005年1月29日(土)～3月21日(月・祝)
休 館 日 : 月曜日(ただし3月21日は開館)、祝日の翌日(ただし2月12日は開館)
開館時間 : 午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
観 覧 料 : 一般800(700)円 20歳未満・学生650(550)円 65歳以上400円
()内は20名以上の団体料金です。
高校生以下の方、障害者の方は無料です。

会 場 : 神奈川県立近代美術館 鎌倉
〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53
tel.0467-22-5000

主 催 : 神奈川県立近代美術館、東京新聞
展覧会協力 : アート・ベンチャー・オフィス ショウ

詳しくは、美術館ホームページに掲載される下記のプレス情報をご覧ください。
http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2004r_satotetsuzo.pdf

[同時開催] 於 : 第2展示室

小関利雄と子供たちの世界

Ozeki Toshio and the World of Children's Art

湘南を中心に児童画教育に大きな足跡を残した小関利雄(1907-1989)の画業と教育者としての活動を小企画として紹介します。



お問い合わせ先

神奈川県立近代美術館 葉山 〒248-0005 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1
tel.046-875-2800 / fax.046-875-2968 広報担当 : 忌部 展覧会担当 : 水沢・橋
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/> 小関利雄展 : 稲庭

異色の作家シリーズV 没後50年記念 佐藤哲三展

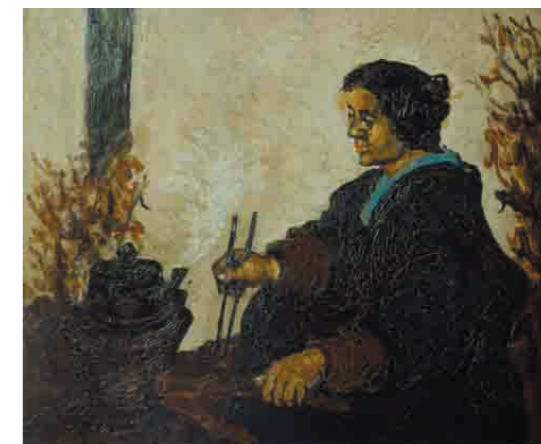
佐藤哲三は1910(明治43)年、新潟県長岡市に生まれました。13歳の頃から絵を描きはじめ、17歳のとき、第1回大調和美術展の出品作がすべて落選したものの、落選理由を尋ねようと赴いた会場で梅原龍三郎に出会い、梅原からの教を大きな励みとして独自の道を歩みはじめました。その3年後の1930年にはスーチンあるいはファン・ゴッホの影響も見られるような太い線や、厚く盛られた鮮やかな色彩を特徴としながら、深い人間洞察も秘めた《赤帽平山氏》を描き、国画奨学賞を受けました。翌1931年も《郵便脚夫宮下君》で同賞を受賞し、若くして一躍中央画壇の注目の的となった佐藤哲三は、東京に進出するのではなく、郷里新潟に制作の基盤を置いて、かたくなに故郷の風景を描きながら、国画会を中心に活躍しました。

1939年結婚を機に移り住んだ加治村では、特にドイツの女流画家ケーテ・コルヴィッツへの共感から、農民の生活にモチーフを得て作品を描き、そこに生きる人々の心情や風景を映し取りました。戦中の一時期においては、農村の子どもたちに絵を教えるなど、児童画教育にも熱心に取り組み、その暖かい眼差しにも彼の人柄を偲ばせる一面が垣間見られます。そして、戦後から亡くなるまでの約10年間は、病をおして作品に向かい、蒲原平野を題材に《みぞれ》や《帰路》といった日本風景画史に記憶されるべき印象深い作品を制作し、国画会にも出品を続けていましたが、1954(昭和29)年、ついに病に打ち勝てず、郷里の新潟で44歳の短い生涯を閉じました。

風土に根ざすとともに、世界的な視野にたつて絵画制作と教育に邁進したその足跡は、いまなお多くのひとびとの共感を誘います。本展覧会はその全貌を紹介することにより、佐藤哲三の芸術をより深く理解していただくよい機会になるものと存じます。



《汽車》1933年 油彩・カンヴァス 14.5×19.0 個人蔵



《ひるめし時》1932年 油彩・カンヴァス 54.0×65.0 個人蔵



《みぞれ》1952年 油彩・カンヴァス 60.3×133.0 個人蔵